

あなたと市政をつなぐ情報紙 無党派無所属

府中市議会議員／会派 市民の風

ゆうきりょう

市政
通信

毎日ブログ更新中

ゆうきりょう

電話 090-4136-7642



京王線踏切の安全対策を早急にしてほしい！

AI技術などの導入で踏切事故をゼロに・・・京王電鉄へ要望

市民のみなさんからのご要望のなかで多いのが、市内の線路の踏切の安全対策の要望です。なかでも京王線の多磨霊園駅付近、東府中駅付近（商工会館近く）、片町1丁目付近の踏切についての対策です。とくに東府中駅付近、片町1丁目付近の踏切では、過去にも人身事故が発生していることもあり、さらなる安全策の向上が急務です。

府中市も将来においては、これらの線路について高架化を行うとの市長答弁が、以前に議会でもありましたが、時期はいつになるかわかりません。こうしたなか、私は京王電鉄本社にこれらの踏切の安全策を求めて、要望書を提出しました。



AI技術を導入して安全向上を図ることも可能

この間マスコミ報道（9月4日付、産経新聞）によると、「山陽電鉄（神戸市）は昨年、踏切近くに設置されたカメラ映像を人口知能（AI）で解析し、取り残された人を検知する新システムを導入。点字ブロックにQRコードを埋め込むことで、スマートフォンをかざすと音声案内が流れる機能が開発されている」との対策を講じたとあります。さらに同記事では「鉄道の安全対策に詳しい関西大学の安部教授は『踏切ごとに立地や利

用者が異なる。最先端技術の活用も視野に、特性に基づく対策をリスクの高い踏切から優先的に導入していくべきだ』」としています。

こうした状況も踏まえ、府中市内沿線における京王線の踏切安全対策について、AIなどの機能をはじめ、様々な角度から現場の状況に応じて、事故を未然に防ぐさらなる措置を講じるよう要望したところ。今後とも継続して働きかけていきたいと思っています。

西武鉄道もAI技術を導入、踏切の安全対策実施へ

11月16日付朝日新聞多摩版に、「西武鉄道はAI(人口知能)や3D画像解析システムを用いて、踏切内の異常を検知するシステムの運用を開始した」と報じています。記事では「踏切内に取り残された人を、カメラで検知する。国交省によると、3Dカメラを使った踏切向けシステムは国内で初めてで、「3Dのものは2つのレンズで距離や高さなどを立体的に認識し、AIのものは骨格などを検知して人を認識する」「共に、踏切内に3秒以上とどまっていた場合に運転士に異常を知らせる仕組み」とのことです。西武鉄道では年内に2つの踏切でこうしたシステムを導入するとしています。

府中市の公共施設再編について・・・人口減少、高齢社会の将来を見すえたあり方を考えるときに

市民 保養所「やちほ」 民間事業者へ譲渡にむけた取り組み（府中市）
先日の府中市議会で、府中市の市民保養所「やちほ」（長野県八千穂町）について、市は「令和3年3月に策定した宿泊機能・サービスの今後のあり方にかかわる基本方針」のなかで、施設を有しないことを決めました。

★「やちほ」については、今後の運営を希望する民間事業者がある

その後、市は施設運営の終了後の方策を検討するため、事業参画を想定する民間事業者との間で、市場性を把握する調査を実施、今後、譲渡に向けた取り組みを進めていることが、議会でも報告されました。

その調査の結果、市の報告では「（やちほの）民間事業者による施設の活用について、現在の社会情勢などを踏まえ、宿泊施設としての活用は困難と判断する一方で、事業性を見出し、前向きな提案を行う事業所も確認できた」とし、「建物や設備の不具合が生じないよう、施設譲渡までの期間は運営を休止することがないようすべきとの意見があった」としています。

なお今後「やちほ」については、令和5年の4～5月に事業者の公募、選定と優先交渉権者の決定、7月に譲渡先の決定と仮契約、10月に譲渡契約の締結、令和6年4月に物件引き渡し、民間事業者による運営開始と

いう予定が報告されました。

この「やちほ」を民間業者に譲渡する件については、その利用者の減少などから市としては今後の運用コストなども考えると、やむえない判断だと思われます。

★人口減少、高齢社会をむかえる状況をふまえて、他の公共施設についても再編縮小も考える時に

私は現在、府中市が保有するこうした公共施設について、将来の人口動態と経済状況の推移を予測、分析しながら民間事業者へ譲渡していくという政策は、今後も検討しうる課題だと思っています。なかでもバブル期に建てられた大型公共施設などについて、今後その過大な運営コストがかかることを考えると、このままでよいのかという思いもあります。またこの課題について、今後も考えていきたいと思っています。

「やちほ」・府中市が長野県佐久穂町との間で「姉妹提携都市」を結んだことにより開設された保養所で、その安価な料金と長野県の避暑地ともいう特性もあり、長年にわたり市民向けに運用されてきました。



ゆうきりょうの「コーヒープレイク」

私は府中市の伝統芸能である、お囃子を教えていただいています（毎週、幸町で）。府中市は、くらやみ祭りなど、お祭り文化の街でもあり、お囃子はその中心をなす音楽です。私はこのお囃子を通じて、府中で伝えられている芸能文化を学び、郷土愛の精神を育む重要性を感じています。

また府中市議会議員としての任期も残り4ヶ月をきりましたが、これまで同様、日々1日1日の活動に尽くす思いです。引き続き市政へのご要望などお寄せください。

浅間町の基地跡地留保地の活用計画・・大型スポーツ施設ではなく緑豊かな環境をいかす施設を（市民発あなたの声）

来年度の市長あての予算へむけ、市民の方がたから多数のご要望をいただきましたが、浅間町の基地跡地留保地の活用計画について、ご意見をいただきましたので以下紹介させていただきます。



浅間町の基地跡地（留保地）のすぐ近くに住んでいることもあり、これまで市主催のワークショップに参加して意見提案もしてきました。その後、これまでの計画が一旦白紙に戻ったことを知り、愕然としました。しかも、ラグビーの試合が開催できる競技場の設営を望む声が根強いとの新聞報道を見て、大きな憤りを感じています。

とくにこの基地跡地周辺は、森公園と浅間山につながる緑多い地域であ

り、閑静な住宅街です。参加したワークショップでは、市の担当者の方が「地域住民の方々に喜ばれる開発にしたい」とおっしゃっていて、安心していただけたところでした。新聞報道にあったスポーツ競技場については、調布のスタジアムで充分です。お客さんにとって「味スタ」は、ほぼ府中にあり不便を感じません。高齢化を迎える府中市民にとって、税金を建設及び維持費に投入しても構わないと思えるのは、大規模な競技場ではありません。日常的に徒歩で通える文化センター、緑豊かな公園、文化的な美術館や芸術劇場こそ、残すべき公共施設だと私は思います。（市民の方の声より）

留保地活用計画は、持続可能な公共施設、街づくりのあり方を模索すべき

～浅間町の基地留保地内の通信施設について、府中市は通信施設の返還を前提で計画を策定していましたが、米軍から通信施設の返還をうけて、急ぎよ計画の全面的見直しが必要となりました。「府中市の高野市長は今年8月の記者会見で『基地留保地の真ん中にある土地が返還され、利用計画を変えなければいけない』との考えを示した」「新たな公共施設を造る場合、既存施設との関係を考える必要があり、将来的な市全体の公共施設の再配置問題も絡む。高野市長は『早く方向性を出さなければいけないが、見直しには数年かかる』と話している」（東京新聞より）。

留保地の活用をめぐるっては、スポーツ系団体からは、大型スポーツ競技施設、庭球場施設の要望が市に提出されているとのことです（議会での質疑から）。これだけの広い土地であり、その活用計画については、将来の府中市の人口動態や経済状況などを冷静に分析し、市の将来像を冷静に見すえた、慎重かつ将来にむけた持続可能な公共施設、まちづくり計画案を策定すべきです。（ゆうきりょう）

高齢社会をむかえた今日、府中市は高齢者の「足」を最優先にした交通計画の実施を・・「ちゅうバス」にもシルバーパスの適用を要望



私は府中市議会の一般質問で、府中市のコミュニティバス「ちゅうバス」の運行改善について、将来的な方向性も含めて質疑で取り上げ、以下3点について要望質疑しました。

★ゆうきりょうの要望①・・高齢者の方に「ちゅうバス」への利用促進のために

※市の答弁⇒現状では考えていない。

★ゆうきりょうの要望②・・大型バス、コミュニティバスが入れない住宅街など公共交通の空白地域を解消するため、小回りのきく車両『小型EVバス』の導入や、AIなどの新技術を導入して、利用促進を図っている、

近隣自治体もあるが、府中市もこうした施策について、民間事業者との協力もえて、施策を検討してほしい。

※市の答弁⇒住宅地などの地区内交通を支える最適な移動手段について、検討をすすめる予定。

★ゆうきりょうの要望③・・ちゅうバスの運行時間の延長を希望する利用者の方々が多数ある、ぜひ検討してほしい。

※市の答弁⇒現状は困難であるが、アンケート調査などで得られた運行時間帯へのご意見を踏まえ、今後の地域公共交通計画の施策を推進するなかで、ちゅうバスの運行時間延長の可能性についても、検討する必要があると考えている。

「飼い主のいない猫」の対策についてさらなる施策の推進を求めて・・ゆうきりょうの市議会一般質問

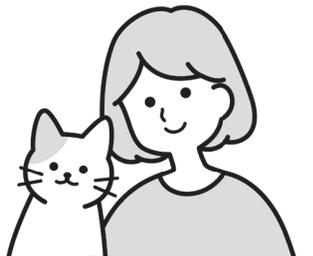
★ゆうきりょうの要望①⇒東京都では整備事業「動物の相談支援体制整備事業」を実施しているが、ぜひ府中市でもこれを活用して、将来は市の独自施策として実施してほしい。この制度は①飼い主への助言、支援に要した経費補助、②飼い主から引き取った動物や保護した飼い主のいない猫を譲渡するまでに要した経費、③新しい飼い主へ動物を譲渡するために要した経費について、都が補助する制度となっている（補助率は10分の10）。

★ゆうきりょうの要望②⇒犬や猫の多頭飼育の崩壊を防ぐために、多頭飼育崩壊している家庭への支援として、犬や猫を引き取って、捕獲や保護してから譲渡を実現するまでを、NPO法人などの保護猫団体に委託事業で支援することについて、検討してほしい。

★ゆうきりょうの要望③⇒将来的に「動物愛護相談支援窓口」（仮称）を市に設置し、飼い主が健康上の理由で犬や猫を飼いつづけることが困難となったときなどの、各種相談に応じる体制を作ること検討してほしい。

★ゆうきりょうの要望④⇒より幅の広い住民の方々からの協力をうるために、「地域猫活動協力員」制度（仮称）のようなものを創設し、住民からの協力員を幅広く募り、活動協力をえることを検討してほしい。

～今回の質疑では、足立区が実施している施策を参考に上げました。いずれの要望に対して、市からは積極的な答弁を得ることはできませんでしたが、引き続き、市議会でも取り上げていきます。



府中市では物価高騰から市内事業者の経営支援のために、燃料費と光熱費の一部を補助します

府中市ではコロナ禍以前の2019年と22年の同月の売り上げを比較し、10%以上の減少があることを補助条件に、中小企業と小規模事業者の補助限度額で法人が10万円、個人事業主が5万円、大企業は40万円まで支給します。あわせて「むさし府中商工会議所」の経営指導を1年以上継続してうける意思がある場合は、上限額をそれぞれ2万円引き上げるとのことです。申請については12月中旬から来年2月中ごろまで。

今回の事業者への補助については、国からの補助金（中小企業等原価価格、物価高騰臨時対策事業費）と、市の一般会計予算から充てて実施するものです。全体の補正予算額は4億4900万円程度。※問い合わせ先・府中市 産業振興課 電話：042-335-4142



ゆうきりょう のラジオパーソナリティ番組

FM府中（ラジオフューズ、87.4MHz）「府中市議会議員 ゆうきりょう 市民の風」、毎週火曜日22時45分から6分間放送、日曜日も再放送。市政の動きなど情報を発信中。ぜひお聴きください。